

耐火商數

ゼーゲル三角錐番號

(高山甚太郎氏報文未完)

抜萃

●戰時歐米視察談

(日本鑛業會誌第三百六十六號)

工學博士 大島道太郎君

昨年來私は漢治萍の用務で英吉利と亞米利加に参りましたが、其用務と云ひますのは、此前もちよつと御話を致しましたが、今度の日支談判で非常にやかましくなりました漢治萍の事業に日本の資金が入つて居ると云ふ爲に、私が漢治萍に雇はれることになつた譯であります、さうして其資金で今度各工場の改良及新設をすると云ふことになりまして、其設計を向ふですとか、或は材料機械の注文を致すと云ふやうな用務を帯びて、支那人二人、日本人二名と云ふもので向ふを廻つたのであります、昨年の十月中旬に横濱を立ちまして、十一月一日でありましたかに桑港へ着きました、行きまします時の考へは戦争にもなつて居るので、或人の説では、到底戦争中は機械の注文をすることは出来まい、又一つの説には、寧ろ好機會である、戦争の爲に商賣が不景氣になる、従つて機械製造業などは餘ほど閑であらうから、機械の注文も存外樂に行ける、私なども何方かと云ふと樂だらうと云ふ樂觀説を以て参つたのであります、それで亞米利加へ着いて模様を見ますと餘ほど變態を來して居る、一體世界中